

第三編 地区別計画

我孫子地区

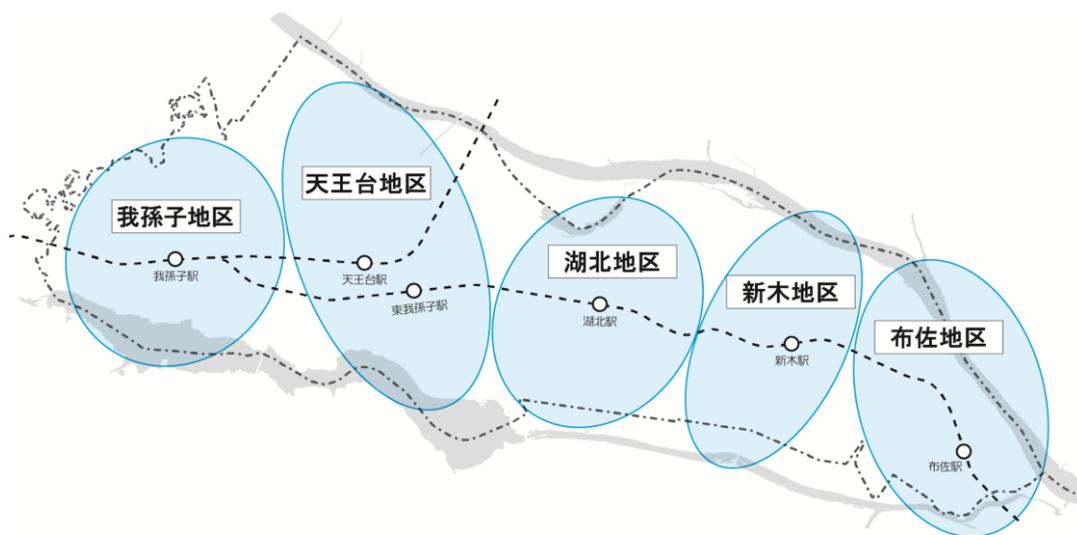
天王台地区

湖北地区

新木地区

布佐地区

- 駅を中心とした、我孫子、天王台、湖北、新木、布佐の5つの地区は、地形、交通上の特性や歴史の積み重ねの中で、市民生活と密接にかかわりながら形成され、地区ごとの個性を育んできました。
- 魅力あるまちをつかっていくためには、市民生活の基盤である地区からまちづくりを実践していくことが重要です。
- そのためには、地区にクラス市民の主体的なまちづくりを支え、市民と協働で地区づくりに取り組むことが必要です。
- 基本構想の「地区別構想」では、5つの地区ごとにそれぞれの特性をいかした将来像を示しています。この将来像は、市民とともに進めるまちづくりの目標であるとともに、それぞれの個性が結びつき、市全体の将来都市像を実現していくものとして位置づけられています。
- 市全体の人口は平成22年をピークに減少に転じており、昭和40年～50年代に開発された多くの住宅地域では、高齢化率が平成33年には37%を超え、急速に高齢化が進むことが見込まれます。
- 地域での高齢化が加速するとともに、地域でのつながりが希薄化している中、地域の防犯や防災、地域の福祉など生活の安全・安心に向けた取組みに適切に対応することが今まで以上に必要となっています。また、平成27年7月に実施した市民アンケートでも、今後の市の取り組みの中で、医療や防災・防犯など、「安全・安心」に関する施策の充実・強化が求められています。
- そのため、地域の人々が地域の情報を共有し、地域で支え合うしくみを再構築できるよう地域コミュニティの活性化に取り組むとともに、地域の特性や課題を踏まえ、地域の実態にあった効果的な施策を展開していきます。
- 地区別計画は、地区の状況を踏まえながら、分野別計画の7分野の施策展開を地区の視点でとらえ、3つのまちづくり方針（「人のつながりを深めるまちづくり」・「地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり」・「安全で快適な暮らしを支えるまちづくり」）に分類・整理して示したものです。



『ゆとりと若さが出会い、自然と歴史が人を結ぶまち』

- 我孫子地区は、市内で最も人口が多く、交通の結節点である我孫子駅があり、市の中心地となっています。また、我孫子駅周辺では、マンション・宅地開発に伴い人口が著しく増加してきましたが、ここ数年はほぼ横ばいとなっています。
- 地区の南側に広がる手賀沼沿いには、斜面林などの自然環境が残るとともに、大正時代にこの地でくらし文化人たちの邸宅などの歴史的・文化的遺産が数多く点在しています。

<人のつながりを深めるまちづくり>

- 我孫子地区は、近年の我孫子駅周辺の人口増加に伴い、子育て世代や就学前児童数が市内で最も多い地区となっており、年少人口はこれまで増加傾向にありましたが、今後は減少していくものと予想されます。
- この地区には、アビスタやけやきプラザなどの公共施設が多く立地しており、中央学院大学や電力中央研究所などの研究機関では、オープンカレッジや研究所公開など地域の生涯学習の推進に寄与する取り組みも行われています。
- 久寺家中学校区と白山中学校区では、総合型地域スポーツクラブ「あびこ根戸エンジョイクラブ」と「四小元気会」が結成されており、スポーツを通じて地域の人々の交流が生まれています。
- 我孫子第一小、我孫子第四小、根戸小、並木小では、小学生を対象として、放課後や土曜日、夏休みなどに自由に過ごすことができる安全・安心な場所を提供するため、地域住民との連携によりあびっ子クラブが運営されています。また、子育て世代間の交流を育むため、子育て支援施設「にここ広場」を運営するとともに、我孫子駅周辺の商業施設や手賀沼公園などでは、子育て中の親子を対象としたイベントを開催しています。
- さらに、地区のほぼ全域で自治会が結成され、環境保全や福祉、防犯などの活動が行われているとともに、まちづくり協議会では、お助け隊による高齢者支援や乳幼児親子の仲間づくりに取り組むなど、地域に根ざしたコミュニティ活動が展開されています。
- 久寺家地区では、まちづくり協議会や自治会、市民活動団体などのさまざまな団体で構成され、地域の現状や課題などについて話し合う「地域会議」が、他の地区に先駆けて設置されており、地域コミュニティの活性化に向けた取り組みが進められています。
- 今後も、こうしたまちづくり活動を支援するとともに、生涯学習の機会などを充実させ、新たな活動の担い手の育成に取り組んでいきます。

【地区の主な施策展開】

■多世代の市民交流・活動支援の充実

- 地域と子どもの居場所との連携・交流の推進（あびっ子クラブの運営）
- 公民館や図書館サービスの充実
- 地域会議の設置
- 子育て世代間の交流の促進

<地区の資源をいかし、にぎわいを生み出すまちづくり>

- 我孫子地区の南側には手賀沼が広がり、これに沿うように形成されている斜面林や根戸城跡周辺の緑地など、貴重な自然環境が残されています。
- 地区北側には、根戸小学校周辺の樹林地があり、また、布施地区を中心に台地上に畑地が、利根川沿いの北新田地区を中心に広大な水田が広がっています。
- 根戸新田地区では、手賀沼沿い農地活用計画に基づき、水稻や露地野菜の栽培とともに、景観作物栽培、観光農園や体験農園の運営等により農地の保全と活用が行われています。また、我孫子新田地区では、市内の農家が主体となって、農産物直売所「あびこん」を運営しており、農業の活性化や地産地消の推進に取り組んでいます。
- 手賀沼周辺には、大正時代にこの地にいらした柳宗悦や志賀直哉、杉村楚人冠ら文化人たちの邸宅など、歴史的・文化的遺産が数多く点在するとともに、手賀沼の水辺と親しめる手賀沼公園があります。
- 我孫子駅南口に立地する我孫子インフォメーションセンター「アビシルベ」では、市の商業・観光情報を広く発信するとともに、イベントや作品展示を行うなど、まちの活性化に取り組んでいます。
- 今後も、手賀沼文化拠点整備計画などに基づき、自然環境や農地、歴史的・文化的遺産を保全し、まちづくりに活用するとともに、地域が元気になる取り組みを支援して地域のにぎわいづくりを進めていきます。
- また、商業・観光の振興が求められていることから、景観形成を推進するゾーンとして指定した「我孫子駅周辺から公園坂通り」や「手賀沼ふれあいライン」が魅力的な空間となるよう、市の中心拠点にふさわしいにぎわいづくりに取り組みます。さらに、我孫子インフォメーションセンター「アビシルベ」を活用して、交流人口の拡大に取り組みます。

【地区の主な施策展開】

■ 自然と歴史・文化の一体的な保全・活用

- 手賀沼と周辺の自然環境の一体的な保全・再生
- 根戸小学校周辺の樹林地の保全と活用
- 根戸城跡周辺の緑地の保全と歴史公園の整備
- 手賀沼とその周辺の文化・歴史的史跡などの活用（手賀沼文化拠点整備計画の推進）
- 手賀沼沿い農地の保全・活用への支援

■ 中心拠点としての新たなにぎわいの核づくり

- 手賀沼ふれあいライン特定地区である我孫子新田から若松までの景観づくりの推進
- 観光振興と交流人口増加のための手賀沼沿いの土地利用誘導
- アビシルベを拠点とした、観光資源やイベントなどの地域情報の発信

<安全で快適なくらしを支えるまちづくり>

- 我孫子駅は、JR常磐線とJR成田線の結節点であり、東京メトロ千代田線の始発駅でもあることから、多くの市民に利用されています。
- また、バス路線が整備されていない我孫子駅西側の地区などでは市民バスを運行しています。
- 道路も広域的な幹線道路や地区内道路の整備が進められており、交通環境は比較的良好な地区です。現在、我孫子駅と手賀沼を結ぶ公園坂通りの渋滞解消を図るとともに、歩行者の安全性・快適性を確保するため、都市計画道路手賀沼公園・久寺家線の整備を進めています。
- 駅の南側では土地区画整理事業により市街地の計画的な整備が進められており、住宅地では緑地協定や地区計画により緑のまち並みづくりが行われています。
- 一方、大雨時などに常襲的な浸水被害が発生している地区があり、その対策を強化することが求められています。
- 今後は、地区の利便性や住環境をより向上させるため、駅南側の土地区画整理事業を早期に完了させるとともに、手賀沼公園・久寺家線の整備を進めます。
- さらに、駅利用者の利便性を高め、高齢者や障害者など誰もが安全で快適に移動できるよう、駅構内のエレベーター設置をJR東日本に対して要望していきます。
- また、若松地区や根戸地区、寿地区などでは水害対策に取り組み、安全なまちづくりを進めます。

【地区の主な施策展開】

■ 誰もが快適に移動できる環境づくり

- 都市計画道路手賀沼公園・久寺家線の整備促進
- 公園坂通りの計画的な整備

■ 安全で快適に生活できる都市基盤整備の推進

- 我孫子駅前土地区画整理事業の推進
- 若松地区、根戸地区、寿地区などの排水施設の整備